鶏 肉 情 勢

令和6年12月10日 更新　　全農チキンフーズ㈱

項目		内容
供給	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年10月末実施)によると、10月の推計実績は処理羽数64,572千羽(前年比101.7%)、処理重量194.6千ﾄﾝ(同101.9%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は前月予測から変更無し、処理重量は0.4%上方修正となった。北海道・東北エリア・九州エリアが前年から処理重量ベースで数値を伸ばしており、夏場の種鶏成績の低下はあったものの順調な生産状況だったようだ。 (2) 11月の計画処理羽数・処理重量ともに前年を下回る予想となっており、前月予想から処理重量ベースで1.5%下方修正となっている。昼夜の温度差による飼育管理が難しいことも影響しているのではないだろうか。土・日・祝日数は前年と同じ10日間。 12月については、土・日・祝日が前年から1日減り9日間。処理羽数・処理重量ともに前年を下回る見通しだ。前月予想から処理重量ベースで0.8%下方修正となっている。今夏の酷暑による種鶏成績の落ち込みに加えて一部産地で脚弱が発生していることも影響しているのではないだろうか。高病原性鳥インフルエンザの影響は数値に折り込まれていないと考えられるため、国内の発生状況によっては今後影響が出る可能性がある。工場の人員不足については外国人技能実習生が都市部への就業に集中していることに加え、来日が遅れている産地が一部あるようだ。また、従業員の高齢化もあり人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や機械で加工することが難しい手羽中半割といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。この傾向は暫く続く見通しだ。
	2. 輸入	(1) 財務省11月28日公表の貿易統計によると、令和6年10月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+13.2千ﾄﾝの62.3千ﾄﾝ、国別ではブラジルが前月+10.4千ﾄﾝの43.4千ﾄﾝ、タイが+2.6千ﾄﾝの17.9千ﾄﾝとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は11月が51.1千ﾄﾝ(前年比130.3%)、12月は52.6千ﾄﾝ(同103.1%)となっている。ブラジル産鶏肉の輸入量が増加する見通しだ。輸入価格が落ち着いたことや、国産含めた国内需要が堅調であることから輸入量が増加しているようだ。食料品全般の値上がりや消費者の生活防衛意識の高まりなどから、比較的安価な輸入鶏肉の需要が増加することを見越し、積極的に在庫を抱えている業者もあるようだ。ただし、国内倉庫の在庫量が多く、入庫が難しくなっているため放出する業者も今後は出てくるのではないだろうか。不透明な為替動向や他国の輸入状況次第では状況が変化する可能性はある。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から+10.0千ﾄﾝの47.9千ﾄﾝで国別では中国が+0.3千ﾄﾝ、タイが+7.4千ﾄﾝとなった。前年同月実績44.4千ﾄﾝとの差は+3.5千ﾄﾝとなり、前年比では上回る結果となった。国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴う中食・総菜向け等の引き合いも継続している。冷食関係でも輸入鶏肉を使用したメニューが増えており、鶏肉調整品自体の需要も高い水準を維持している。今後は価格次第では国内需要も見据え輸入量が拡大する可能性がある。 (3) 財務省11月28日公表の貿易統計によると、10月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より▲2.3%となった。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が316.1円/kg(前月比+14円)、タイ産が424円/kg(同+5円)となっている(国別平均価格)。前月からは価格が上昇したものの、ブラジル産の価格が落ち着いてきたこともあり前年は下回った。中国がブラジルからの輸入量を前年から絞っており、中東向けが増加傾向にある。鶏肉調整品の重量は中国が前年同月より8.9%増加、タイが7.0%増加した。
需要	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年10月の生鮮肉消費(購入)は数量4,116g(前年比99.3%)、金額6,611円(同100.2%)と、重量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,584g(同105.5%)・金額1,595円(同100.5%)・単価95円/100g(前年同月▲4円)と、数量・金額は前年を上回ったものの、単価は前年を下回った。これは購入単価が高いモモ肉から比較的安価なムネ肉へシフトしたことや、ディスカウントストアなどの価格が低く抑えられた店舗での購入機会が増加したためではないだろうか。調理食品が金額13,068円(同101.5%)、外食が15,152円(同103.0%)となっている。畜産の購入数量は鶏肉が前年を上回り、牛肉・豚肉が前年を下回る結果となった。輸入品含めた牛肉・豚肉の高騰が続いたことから安価な鶏肉へのシフトが進んでいると推察される。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外となるインバウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。
	2. 量販・卸	(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年10月の食品売上高は全店ベースで前年比102.5%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同101.7%、既存店ベースは同100.2%となった。また、畜産部門の売上高は約1,229億円で全店ベース同101.1%、既存店ベース同99.5%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、「全般的に相場高が継続するなか、気温が高く推移したため鍋関連の動きが鈍く、やや不調となった。牛肉は輸入牛が不振だが、国産牛は前年並みで推移した。豚肉は相場がやや落ち着き、ひき肉や小間切れなどの低価格商品の動きがよかった。鶏肉は節約志向の中で比較的堅調だが、鳥インフルエンザ発生の影響を心配するコメントもみられる。加工肉は高値傾向で不振が続いていたが、一部で回復傾向もみられている。」とコメントがあった。安価な商品に需要が集中している傾向は変わらないようだ。
	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和6年10月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比101.3%の4.8千ﾄﾝとなった。うち国内品は同107.4%の3.8千ﾄﾝと前年を上回り、輸入品については同82.8%の1.0千ﾄﾝと前年を下回った。
在庫	1. 令和6年10月	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の10月末時点推定期末在庫では国産32.2千ﾄﾝ(前年比108.2%・前月差▲1.0千ﾄﾝ)、輸入品141.1千ﾄﾝ(同107.8%・同+4.6千ﾄﾝ)と合計で173.3千ﾄﾝ(同107.9%・同+3.6千ﾄﾝ)となった。
	2. 見通し	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、10月の出回り量は国産148.6千ﾄﾝ(前年比101.9%・前月差+10.7千ﾄﾝ)、輸入品57.7千ﾄﾝ(同116.9%・同+7.2千ﾄﾝ)と合計で206.4千ﾄﾝ(同105.7%・同+18.0千ﾄﾝ)となった。前月からは国産・輸入品が共に増加している。国産・輸入品の出回り量が200.0千ﾄﾝを超えるのは今年4月以来で、2024年以前は12月のみ200.0千ﾄﾝ超えることはあったが、本年は鶏肉自体の需要が伸長しているため増加している。10月以降の在庫については年末用の凍結在庫確保が進んでいない業者が多く、一時的に増加していくと予想する。輸入品についてはブラジルからの輸入量が増加する見通しのため、在庫は増加するものの、外食筋・加工筋の引き合いがあるため、急増することは考えにくい。
相場	1. 令和6年11月動向	(1) 令和6年11月の月平均相場は、モモ肉690円/kg(前月差+38円)・ムネ肉392円/kg(同+13円)正肉合計で1,082円/2kgと前月を51円上回り、前年同月を35円上回った。モモ肉相場は月初669円、月末は705円となり(昨年は月初665円、月末678円)、前年の相場を上回った。生産においては全国的に夏場の種鶏の成績が悪く、ヒナの需給がタイトな状況が続いたこともあり、需要に対して供給量は少なかったようだ。販売についてはモモ肉が量販店など好調なこともあり年末用の確保が進んでおらず、卸業者間での融通も難しくなっているようだ。ムネ肉については他畜肉含め価格が安価なこともあり、量販店での動きも活発化している。副品目についてはむね肉同様のようだ。輸入鶏肉については冷蔵庫に余裕が無いため放出が懸念されるものの、外食向け需要が伸長していることから値崩れには繋がっていないようだ。
	2. 見通し	(1) 12月の生産量は生産・処理動向調査によると処理羽数・処理重量が前年を下回る見込みとなっており、種鶏の成績悪化に伴う入雛の遅れではないかと考える。販売は好調であり、集荷が難しい場面が直近でも頻発している。家計調査を見ても牛肉→豚肉、豚肉→鶏肉への需要シフトは継続して進んでおり、消費者の生活防衛意識の高まりから安価な商品へ需要が集中することが予想される。輸入鶏肉については過去4ヶ月(7-10月)の出回り量に対して国内の在庫量が2.6ヶ月分程度あるが、前年もほぼ同水準であることから極端に増加している訳ではない。国内の堅調な需要から輸入量・在庫量ともに増加していると考える。ただし、国内冷蔵庫に余裕が無いことに加えブラジルからの輸入量が増加する見込みのため、在庫を一部放出していく可能性がある。12月のモモ肉相場は上げの月平均730円、ムネ肉相場は月平均400円と予測する。例年通り年末に向けて鶏肉相場は上昇傾向に推移していくと考える。 (2) 12月9日(月)現時点では養鶏場・家きん農場における鳥インフルエンザは12例発生している。肉用鶏(肉用あひる含む)は北海道・宮城県・埼玉県・宮崎県で4例(22.4万羽)、採卵鶏は8例(101.9万羽)発生している。2023年シーズン1例目は11月25日(土)佐賀県鹿島市、2022年シーズン1例目は10月28日(金)岡山県倉敷市、2021年シーズン1例目は11月10日(水)秋田県横手市で発生しており、例年よりも早く発生している状況だ。今後の発生状況次第では国産鶏肉の需給および鶏肉相場へ影響が出ることは避けれないだろう。

実　績

生産状況

単位:千羽、千ﾄﾝ、%

	R5年累計(推計)		R6年10月推計実績		R6年11月計画		R6年12月計画		R7年1月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	72,078	101.3%	63,655	99.7%	68,741	98.2%	66,910	101.6%
処理羽数	743,734	100.9%	64,572	101.7%	62,025	98.6%	67,109	98.4%	60,490	100.7%
処理重量	2,240.5	101.0%	194.6	101.9%	187.4	97.8%	205.5	99.2%	182.9	100.3%

※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

単位:千ﾄﾝ、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R6年6月	49.4	57.7	85.6	42.6	39.7	107.2	92.0	97.4	94.4	53.7	46.3
R6年7月	51.8	46.7	110.9	47.5	39.5	120.2	99.2	86.2	115.2	52.2	47.8
R6年8月	56.7	56.0	101.3	39.8	40.4	98.6	96.5	96.3	100.2	58.8	41.2
R6年9月	49.1	48.4	101.6	39.9	40.8	97.7	89.0	89.2	99.8	55.2	44.8
R6年10月	62.3	47.8	130.4	47.9	44.4	107.9	110.2	92.2	119.6	56.5	43.5

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R6年6月	1,568	1,455	107.8	1,524	1,492	102.1
R6年7月	1,385	1,361	101.8	1,411	1,422	99.2
R6年8月	1,399	1,363	102.6	1,427	1,411	101.1
R6年9月	1,526	1,424	107.2	1,467	1,487	98.7
R6年10月	1,584	1,502	105.5	1,595	1,587	100.5

※参考資料:総務省統計局HP　家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010
R5年	730	395	1,125

在庫状況(推定)

単位:千ﾄﾝ、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年6月	36.7	28.6	128.4	133.1	133.6	99.6	169.8	162.2	104.7
R6年7月	35.5	30.6	115.9	133.6	129.6	103.1	169.1	160.2	105.5
R6年8月	35.1	32.0	109.7	137.9	133.3	103.5	173.0	165.3	104.7
R6年9月	33.2	30.0	110.3	136.5	132.5	103.0	169.7	162.5	104.4
R6年10月	32.2	29.8	108.2	141.1	130.9	107.8	173.3	160.7	107.9

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

出回り量(推定)

単位:千ﾄﾝ、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年累計	1,683.1	1,685.4	99.9	563.3	604.1	93.3	2,246.5	2,289.5	98.1
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R6年6月	142.3	142.1	100.1	47.3	51.6	91.8	189.7	193.7	97.9
R6年7月	141.0	131.7	107.1	51.3	50.7	101.1	192.2	182.3	105.4
R6年8月	130.4	132.3	98.6	52.4	52.2	100.2	182.8	184.5	99.0
R6年9月	137.9	137.7	100.1	50.5	49.2	102.7	188.4	187.0	100.8
R6年10月	148.6	145.8	101.9	57.7	49.4	116.9	206.4	195.2	105.7

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年8月	613	674	90.9	359	383	93.7	972	1,057	92.0
R6年9月	627	646	97.1	368	374	98.4	995	1,020	97.5
R6年10月	652	649	100.5	379	369	102.7	1,031	1,018	101.3
R6年11月	690	673	102.5	392	374	104.8	1,082	1,047	103.3
R6年12月	(730)	691	105.6	(400)	377	106.1	(1,130)	1,068	105.8
R7年1月	(740)	701	105.6	(400)	377	106.1	(1,140)	1,078	105.8

※()は見通し